

## 大野郡和泉村で見つかったヒメシジミ

下野谷 豊 一\*

*Plebejus argus micrargus* Butler (LYCANIDAE)

found in Izumi-mura, Fukui prefecture.

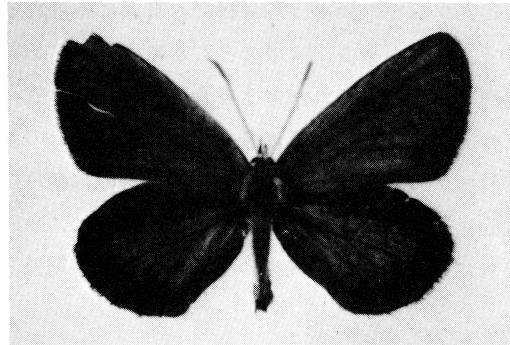
Toyokazu Shimonoya

6～7年も前のことになるが、当時、北陸高校に在学中の吉田という方だったと思うが、その吉田氏が蝶の標本を見せにきたことがあった。いろいろな蝶を雑然と入れてある標本箱の中に、採集ラベルの付いていない数頭のヒメシジミがあるのに気付いた。何気なくこの箱の中のヒメシジミはどこで採集したものですかと尋ねると、吉田氏が小学生のころ父親につれられて福井県内のどこかの山へ行った際に採ったような記憶があるという。県内より記録のない種なので当然県外で採集したものだろうと考えていたので、これは意外な答であった。さらに詳しい確かな採集場所を知りたいと思ったが、吉田氏自身もこれ以上のことは憶えておらず、これらの標本が本当に福井県内で採れたものとは断定できないままに終った。吉田氏のこの標本が県内で採れたものか否かは別として、これが福井県のヒメシジミに関する最初の情報であった。

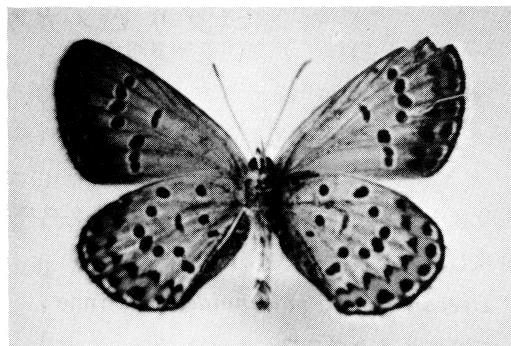
ラベルも付いていない標本のことなので、大して氣にもとめず、月日がたつにつれてこのヒメシジミのことなどもう忘れかけていた。

ところが、1982年6月16日、思いがけずも大野郡和泉村朝日前坂で、県内より初めてのヒメシジミが採集された。

この日は福井県が企画している「みどりのデータ・バンク」のための調査を目的に、友人と共に和泉村大納、三面などを訪れた。その帰途、陽も西に傾きかけたころ朝日前坂の石徹白川沿いのところで、道路上を這うように飛ぶ一頭のミスジチョウの♀を同乗の三上氏が見つけ、それを採るため車を急停車させた。三上氏がこのミスジチョウを追っている間、ふと河原に面し



(Fig. 1)



(Fig. 2)

\* 福井市宝永3丁目31-12

た道路脇を眺めると、草の上をチラチラと飛ぶ1頭の青いシジミチョウが目についた。多分ルリシジミの♀だろうと初めは見逃すつもりでいたがなぜか気になり、持っていたネットを伸ばして一振りしたところ難なく入った。ネットの中で翅を閉じて止っているのを見て一瞬ギクッとした。今まで県内から一度も採れたことのない蝶が入っていたのである。裏面の斑紋や大きさから、石川県の白山周辺にも分布するアサマシジミのことがまっ先に頭をかすめた。逃げられたら大変と慎重にネットから取り出し、フッと息を吹きかけて翅を広げて表面をみるとアサマシジミでなく、左前翅が少し破損しているものの新鮮で大きなヒメシジミの♂であった。

前後翅表面外縁の黒色の縁どりが幅広い、いわゆるクロヘリ型の♂でデータは次の通りである。

*Plebejus argus micrargus* (Butler) ヒメシジミ

大野郡和泉村朝日前坂 1♂, June 16, 1982.

前翅長 18 mm, 下野谷豊一 採集, 所蔵. (Fig. 1 表面, Fig. 2 裏面)

もし土着のものであればもっと沢山見つかるだろうと、夕刻まで付近一帯を探したが最初の1頭以外は採れなかった。後日、さらに何人もの友人が石徹白川流域をあちこち探し廻ったが、この年2頭目は遂に見つからなかった。

ヒメシジミの幼虫は和泉村にも普通にみられるヨモギ、イタドリなどを食べて育つことができる。仮に石徹白川流域のどこかに生息地があるとすると、その生息地より越冬卵か幼虫が何かの要因で運ばれ、それが運よく食草に辿りつき成長した偶産のものであろう考えられる。

また、今回の朝日前坂に最も近いヒメシジミの生息地が、石徹白川上流の山を一つ越した岐阜県高鷲村蛭ヶ野にある。ここに生息するものは朝日前坂で見つかったものと同様の外観と大きさで、地理的にみてもこの蛭ヶ野との間のどこかに、今回の♂を供給した生息地があるのでなかろうか。何れにしてもこの地域での生息地の確認が期待される。

### —短報—

### エグリヒメカゲロウの採集記録

下野谷 豊一\*

比較的まれな種とされるエグリヒメカゲロウを採集したので参考までに記録する。

*Drepanopteryx palaenoides* (Linne)

エグリヒメカゲロウ

大野市仏原ダム 1♂, Oct. 13, 1982.

ダムの水銀灯に集まる蛾を調べに度々奥越各地のダムへ出かけるが、採集できたのはこの1頭だけで、福井県においてもかなり少ない種なのであろう。

